

## 2013年3月5日開催 第576回番組審議会

### ■ 出席委員

荒巻裕委員長、櫻井美幸副委員長、上田理恵子委員、神谷徹委員、佐藤卓己委員、佐藤友美子委員、東野博昭委員、若菜英晴委員

### ■ 毎日放送出席者

河内社長 松島専務 榎本常務 豊田取締役 河村取締役 梅本取締役 東取締役  
立野コンプライアンス室長藤沢編成局長

### ◆ 審議議題

「MBSの番組・放送全般」について

### ◆ 報告事項

「BPO青少年委員会委員長談話」について

### ◆ 審議事項

平成24年度最終の審議会となるため、個別の番組の審議ではなくMBSのラジオ・テレビの番組について、及び放送全般について自由な意見の交換をした。

### 各委員の主な意見は次の通り。

- \* 「はじめまして！出張教室」というラジオ番組が、すごくおもしろく、一生懸命子どもたちに語りかけていて、感動的だった。子どもたちに直接伝えて、生の声が聞けるという企画をもう少し継続的に考えられないものか。
- \* 新聞もテレビも、この1年、維新の会というか、橋下現象をどう報じるかが、1つの大きなテーマだったと思う。派手なパフォーマンスの垂れ流しにならないように、一方的な印象を与えないようにやっていただきたい。
- \* 「ひるおび！」の新聞をめくるのがすごく違和感がある。1行、1行めくっている。メディアである以上、新聞から最初のきっかけを得たにしても、独自の情報が必要なのに、新聞をめくるとは何事かと感じる。
- \* 自分にとって耳の痛いこと、あるいは聞きたくないことを予め排除してしまうツイッター、フェイスブックとは違って、違和感を与えてくれるテレビの報道はありがたい。賛否両論が起こってくるというのは、実はメディアとしては意味のあること。

- \* 若者に夢を与える番組と言いつけているが、今の閉塞した世の中を若者が自分で切り開いて変えていく気になる、素敵な番組をつくっていただきたい。
- \* バラエティー番組は、どれも独特の『ファミリー感』というのが売りになっているが『閉じてしまっている』感じ、内輪ウケの会話、楽屋で遊んでいる印象がある。“楽しい局、”というイメージの一方で、ドラマやドキュメンタリーがきっちり制作されている。
- \* 今回の東海テレビの「幸せの時間」に関するBPOの委員長談話が出て、番審のあり方として、いただいた番組を見るだけではなく、普段からいろんなものを気にしておかないといけないんだというのを改めて感じた。
- \* 「遺品整理人パートⅢ～48年目の証人」は、人の世の悲しみとか辛さみたいなもの、あるいはある意味で残酷な面、そういったことをしっかり見つめてできているドラマだ。浜村淳さんと、パーソナリティーと一緒に同じ時代を歩んできたという人たちがたくさんいる。長寿番組の長寿たる所以がそのへんにある。

以上